

○ IoT・AIの進化やビッグデータ活用などSociety5.0に向けた技術革新や、グローバル化の急速な進展が我々の生活や産業の変革をもたらしている。

こうした社会の変化を踏まえて、高等学校においては、新学習指導要領において、問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結びつきの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む「情報Ⅰ」が必修修科目として設けられた。

また、大学においても、文理問わず、全ての学生が身に付けるべき教養教育として、「データ」をもとに事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得するため、「数理・データサイエンス・AI」のモデルカリキュラムが策定されるとともに、その普及を促進するため教育プログラムの認定制度も開始されたところである。

○ 上記のような高等学校教育、大学教育の動向を踏まえると、今後、大学において、情報に関わる資質・能力について、大学教育を受けるために必要な基礎的な能力として捉え、国語、数学、英語等と同様に、大学入学選抜の過程でその能力を評価・判定していくことも考えられる。

○ 大学入学選抜の中で、大学入学共通テストは、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的として、これを利用する大学が共同して実施するものとして位置づけられている。

新しい高等学校学習指導要領の下で学習した生徒が初めて大学受験する令和7年度入学選抜に合わせて、大学の判断により、大学入学共通テストを利用して、情報に関わる資質・能力を評価・判定することができるよう、大学入学選抜協議会における協議を経て『情報Ⅰ』を導入することが決定された。

文部科学省におけるデジタル人材育成に向けた取組

令和3年第6回経済財政諮問会議
(令和3年5月14日)
萩生田文部科学大臣提出資料(抜粋)

育成目標【2025年】

トップクラス
育成
100人程度/年

2,000人/年

25万人/年

(高校の一部、高専・大学の50%)

50万人/年

(大学・高専卒業者全員)

100万人/年

(高校卒業者全員)
(小中学生全員)

高等教育段階(大学・高専等)

✓ エキスパートの育成

- ・若手の海外挑戦機会の拡充
- ・専門教員養成システムの構築

具体的取組事例

- ・データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)
- ・統計エキスパート人材育成プロジェクト

✓ 専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を習得

- ・応用基礎レベルのモデルカリキュラムの検討、教材開発と全国展開
- ・AI×専門分野のダブルメジャーを可能とする環境整備
- ・運営費交付金・私学助成等の重点化を通じた支援

具体的取組事例

- ・統計数理、データサイエンス、情報に係る新たな学部等の設置(滋賀大、横浜市立大等)

✓ リテラシー教育の展開

- ・リテラシーレベルのモデルカリキュラムを踏まえた教材開発と全国展開

- ・企業から集めた実データ・実課題を整理し、授業で活用できるよう公表・提供

- ・MOOC等を含む履修環境の確保

- ・運営費交付金・私学助成等の重点化

具体的取組事例

- ・数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進

✓ 社会人リカレント

- ・大学等におけるプログラム開発(「職業実践力育成プログラム」(BPP)の認定等)

具体的取組事例

- ・Society5.0に対応した高度技術人材育成事業

リテラシー

小中高校

✓ 「理数・データサイエンス・AI」の基礎的リテラシー習得

- ・新学習指導要領の実施

小学校	中学校	高等学校
2020年度～	2021年度～	2022年度～

- ・理数分野における主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善に関する優良事例収集・普及
- ・データサイエンス・AIの基礎となる実習授業の実施
- ・確率・統計・線形代数等の基盤となる知識修得のための教材作成
- ・STEAM教育のモデルプラン提示と全国展開

✓ 教育環境(学校の指導体制等)の整備

- ・多様なICT人材の登用
- ・1人1台端末、通信環境整備(GIGAスクール構想)
- ・遠隔・オンライン教育の活用

大学
試験
✓ 応用基礎を重視して入学者選抜を行う大学を支援
✓ 「情報I」を入試に採用する大学の抜本的拡大